

# みくびびだより

平成18年12月1日発行  
御首神社社務所



## 御挨拶

拝啓 師走の候、皆様方におかれましては愈々御健勝の事とお慶び申し上げます。

秋篠宮妃殿下紀子様になつては、去る九月六日悠仁親王殿下を御出産遊ばされましたことは誠に喜ばしく、四十一年ぶりの親王さま御誕生に全国民が挙つて慶賀申し上げます。各地で盛大な奉祝行事が行われました。

新王殿下に於かれましては健やかなご成長をお祈り申し上げますと共に、益々の皇室の弥栄をご祈念申し上げます。

近年皇位の継承に懸念を抱き「皇室典範改正」の動きが起こりましたが、新王様の御誕生でこの問題が解決されたとは言えません。今後日本の国柄を守るため皇室制度全般について根本的な議論が慎重に進められることを期待致します。

去る十一月二十一日伊勢神宮式年遷宮奉賛会岐阜県本部が発足し、平成二十五年の「第六十二回神宮式年遷宮」に向かつて本格的な活動が開始されました。遷宮まではまだ期間がございしますが、今から万全の体制を整え、悠久の伝統を継承し、式年遷宮の遂行に努力致したいと存じますので、皆様方により多くの御奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

当神社では新年を迎えるに当たり、境内の清掃など迎春の準備に追われる毎日でございますが、職員一同全国各地からの初詣の方々に、清々しくご参拝頂きますよう準備を致しております。

最後になりましたが、御首の大神様の御神徳を漏れなく拝受され、愈々の御健勝と御多幸を祈念致しまして御挨拶とさせていただきます。

宮司 三浦 篤

須佐之男命の悲しみと誓い(古事記)

高天原を任された天照大御神と夜の国を任された月読命は、まじめに大切なお仕事をしていました。海、海を任された須佐之男命だけは、大人になっても大きな声で泣いてばかりいるので木が全部枯れ、海や川の水もすっかり涸れてなくなっていました。

「まったく困った息子だ」と言って、ぼやきながら伊邪



那岐命は須佐之男命に「どうして毎日泣いてばかりいるのか?」と聞いたところ、須佐之男命は泣きながら「僕はどうしてもお母さん(伊邪那美命)に逢いにゆきたいのです。」と言ってダダをこね、伊邪那岐命の言うことを聞きません。「お前のようなききわけのない息子はもう知らん、この国から出ていってしまえ!」と行って伊邪那岐命は須佐之男命を追い出してしまいました。そこで須佐之男命は一人しよんぼりと考えこんでいま



したが、「そっだ！お母さん（伊邪那美命）に逢いにゆく前に、お姉さん（天照大御神）に最後のお別れをしよう。」と言って、ドス ドス ンともすごい音をたてて高天原へ昇っていったのです。

天照大御神は「弟は、もしかしたらこの国をうばおうとしているのでは？」と思って男の姿になり、たくさんの弓矢を持って須佐之男命と戦う準備をしていました。

須佐之男命がやってくると天照大御神は「弟よ、あなたはこの国をうばいに来たのでしょうか？」と問いただすと、須佐之男命は「僕はお母さん（伊邪那美命）に逢いにゆくので、その前にお姉さん（天照大御神）にお別れのあいさつに來ただけですから、決してこの国をうばい取ろうなんて思っていません。」と言いました。けれども天照大御神は須佐之男命が毎日泣いて暴れまわっていたことを知っていたので、どうしても信用できません。

須佐之男命は、どうしたら本当の自分の心をわかってもらえるのかと思案の末、高天原を流れている「天安河」という川の両側に立って話し合い、二人で子供を産

んで、女の子を産だほうが清らかで正直者であるという「誓い」をたてることになり、五人の男の子を天照大御神が産み、それに比べて三人の女の子を産んだ須佐之男命が勝ってしまいました。

つづく



おとうさん、おかあさん、おじいちゃん、おばあちゃんへ！

今回の「須佐之男命の悲しみと誓い」は亡き母に逢う為、須佐之男命が黄泉の国へ向かうその前に、姉の天照大御神のもとを訪れると言う神話をもとにいたしました。

我が国の祖先から語り継がれた神話の心に触れられ、お子さまやお孫さまとご一緒に読んでいただき、このお話が子供たちの情操教育の一助となりましたら幸いです。

## 祭事報告

西宮神社例祭(相殿) 七月十七日午後三時  
 末廣稻荷神社例祭 八月六日午後三時  
 夏越大祓 八月六日午後三時半



夏の厳しい日差しの下、皆様方が知らず知らず犯した罪や汚れを託された人形は、被い清められた後、忌火にてお焚き上げをし、茅の輪をくぐり無事を祈って頂きました。

長寿祈願祭 九月十五日午後四時  
 神明神社例祭 十月十七日午後三時  
 七五三参り 十一月一日～三十日

七五三参りは大神様に子供の無事成長を奉告し感謝を申し上げ、尚一層の御守護を願う人生儀礼です。週末ともなりますと、境内は晴れ着姿の子供達で賑わっていました。

崇敬会大祭 十一月三日 日午後二時  
 新嘗祭 十一月二十三日午後三時

## 御首神社ホームページ

## 神職への質問FAQ

今回は「不注意から…」について紹介いたします。

**問** お守りを他の衣類と一緒に洗ってしまいました。このまま持ち続けて良いですか？  
 また、御利益もなくなりますか？

**答** 汚れた(不浄な)水で洗われたのと同じになりますので、お守りは返納して頂き、新たに受けられたほうがよいでしょう。そして更なる御利益をお受けになって下さい。

**問** お返しする予定のお札やお守りを紛失してしまいました。どうしたらいいでしょう。  
**答** 見つからないのはしかたがありません。

今後お札やお守りを受けられた時は大切にしてください。もし発見された時は神社へお返しになって下さい。

**問** 年の初めに厄年のお被いを受けました。その際、干支鈴のお守りを戴きましたが、ひよんなことから割ってしまいました。張り合わせましたが、見る度に申し訳なく思う次第です。このままにしてよいでしょうか？

**答** 不慮の出来事ですので止むを得ませんが申し分けのないと思われましたら返納され、もし同じお守りがありましたら改めてお受けになっては如何ですか？

**問** 近くの神社では左義長が行われませんが、お焚き上げ予定の神符・注連縄はどうしたら

いいでしょうか？

**答** 神社により対応が異なりますが、有名な神社であれば左義長神事はあるかと思えますので、先ずはお尋ねになって下さい。

**纏め** 年末から年始にかけて、皆様方には、お札やお守りを受けられたり、或いは返納される機会があると思います。その際、色々な事情や思わぬ過ちを犯したりして、判断に迷われる場合があると思いますが、そんな時にはお気軽に神社にお尋ね頂き、清々しい気持ちで年末年始をお過ごし下さい。

左義長でお焚き上げされるお守りなど



撤饌と閉扉について

神社で祭典の終わり頃に、神前に奉ったお供へ物を下げることを撤饌と云い、献饌の時とは逆に、水・塩・菓・野菜・海菜・水鳥・野鳥・川魚・海魚・餅・酒・荒稲・和稲というように、最後に奉ったお供へ物から順次撤していきます。

大祭では大勢の神職が役割を分担して、一台一台手送りで一列になって運びますが、社殿の事情によっては左右に別れ、交互に手送りをすることもあります。

神饌の受け渡しは、受ける前と渡した後に小さくお辞儀をしますが、その際、ご神氣の懸かったお供え物に息がかからないよう、目の高さまで上げ、慎重にお下げします。



又、奉仕の人数が不足する場合は、総代が介助することが出来ます。

神社によっては祭典の前にあらかじめ献饌を済ませ、御神酒と水玉の蓋を開け閉めするだけの場合もあります。

お供へが撤下されると、次いで御扉を閉じます。閉扉では、宮司が御扉の前まで進み御扉を閉め、最後に御錠をしっかりと掛けて確認をいたします。

大きな神社で扉が非常に大きく、一人では開け閉め出来ない場合は、二人で奉仕することもあります。又、事情によっては扉を予め開けておいて、御簾の上げ下げを以て開閉扉の代わりにすることもあります。各ご家庭では毎朝お供へをされ、夕方に下げするのが普通です。尚、神棚の御扉は常時閉めて頂き、清浄を保って下さい。

崇敬会入会のご案内

入会の方法

御首神社の御神徳に感謝し当社を崇敬される方は、どなたでも入会出来ますので御参拝の折、社務所にお申し出下さい。尚、郵便にても受付出来ますので、申し込み用紙を御請求頂ければ、お送りさせて頂きます。お申し込みされますと、神前にて入会報告祭が執り行われ、会員証・認定状等が交付されます。

会費(年会費)

- 一、個人会員 三千元以上お志し
- 一、家族会員 五千元以上お志し
- 一、特別会員 一千元以上お志し
- 一、法人会員 二万円以上お志し
- 一、名誉会員 三万円以上お志し

会員の特典(抜粋)

- 一、神前にて入会報告祭が執り行われます。
- 一、誕生日には特別祈祷が行われ、神符が授与されます。
- 一、春の例大祭・秋の崇敬会大祭にはご案内申し上げ、大祭特別祈祷神符及びお供え等が授与されます。
- 一、夏越・年越大祓にはご案内申し上げ、ご祈祷致します。
- 一、参拝の折、会員証を御呈示になられますと、会員の方は昇殿参拝が許されます。



祭事案内

年越大祓 十二月三十日 午後三時  
 皆様が半年間の罪穢れを託された人形を、  
 忌火でお焚き上げる大祓神事を斎行いたし  
 ます。年末はどなた様でも忙しくなりますの  
 で、人形は早めに社務所へお持ち頂くか、ご  
 郵送下さい。

元旦祭 一月一日 午前0時  
 左義長 一月十五日 午前10時  
 浄火祭 二月三日 午前10時

皆様が奉納されました帽子や絵馬・金幣・  
 紅白串を厄男が忌火にてお焚き上げし、心願  
 成就を祈願致します。神事の終了後も、当日  
 に限り帽子をお焚き上げ頂いても結構です。



祈年祭 二月十八日 午後三時  
 御鞆神社例祭 三月十七日 午後三時



例大祭 四月二日 午後三時  
 年に一度の大祭で、前夜と当日の二回、大神  
 様に氏子の子供達による打ち囃しの奉納があ  
 り、当日は早朝より子供神輿のご巡幸があり  
 ます。又、境内では演芸が催され、屋台も多  
 く並び、終日賑わいを見せます。  
 南宮神社例祭 五月四日 午後三時  
 お田植え祭 六月初旬  
 農休み祭 六月十七日 午後三時

厄除開運祈禱

男子 大厄 二十五歳・四十二歳  
 女子 大厄 十九歳・三十三歳

古来より「大

厄には諸々の災  
 難、身体の変調  
 のがれ難し」と  
 いわれ、年回り  
 に当る方のみな  
 らず御家族にま  
 でも災禍が及び  
 何かとままなら  
 ぬことが多くな  
 ります。

前後三年間に  
 渡り忌み慎まな  
 ければなりません。  
 厄年に当たる方は勿論のこと、厄年に当  
 たらぬ方も、日々を平穩に過ごして頂くた  
 めにも、一年に一度は厄払いの御祈禱をお受  
 けになりますよう、お勧め致します。

平成19年厄年に当る生れ年				
	前厄	本厄	後厄	
男子	42歳 昭和42年	昭和41年	昭和40年	
	25歳 昭和59年	昭和58年	昭和57年	
女子	33歳 昭和51年	昭和50年	昭和49年	
	19歳 平成2年	平成元年	昭和63年	

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町二二八三の一  
 TEL(〇五八四)九一 三七〇〇  
 ホームページ www.mikubi.or.jp  
 Eメール syamusyo@mikubi.or.jp